

令和8年度以降の森林等環境整備事業 (都市緑化を活用した猛暑対策事業) について

令和8年1月

大阪府 環境農林水産部 みどり推進室

R8年度以降の都市緑化を活用した猛暑対策事業の継続について

- ◆Ⅱ期税：猛暑による府民の健康被害を軽減するため、多くの人が集まる駅前広場やバス停等において暑熱環境の改善を実施。
- ◆Ⅲ期税：依然として熱中症リスクの懸念が高いことから、戦略本部会議において、当面、万博開催年までの2ヵ年で集中的に対策実施を決定。
⇒猛暑が年々過酷となっており、継続して対策をすることが望ましいと考え、
森林環境税の徴税期間であるR9まで残り2年間、事業を継続する方向で庁内議論を進めたい。

R6～7事業実施状況

■R6～7 予算 3億円/2か年

□R6実績 3箇所 補助額1億166万円



JR大阪駅三角広場

□R7予定 2箇所 補助額約7,500万円



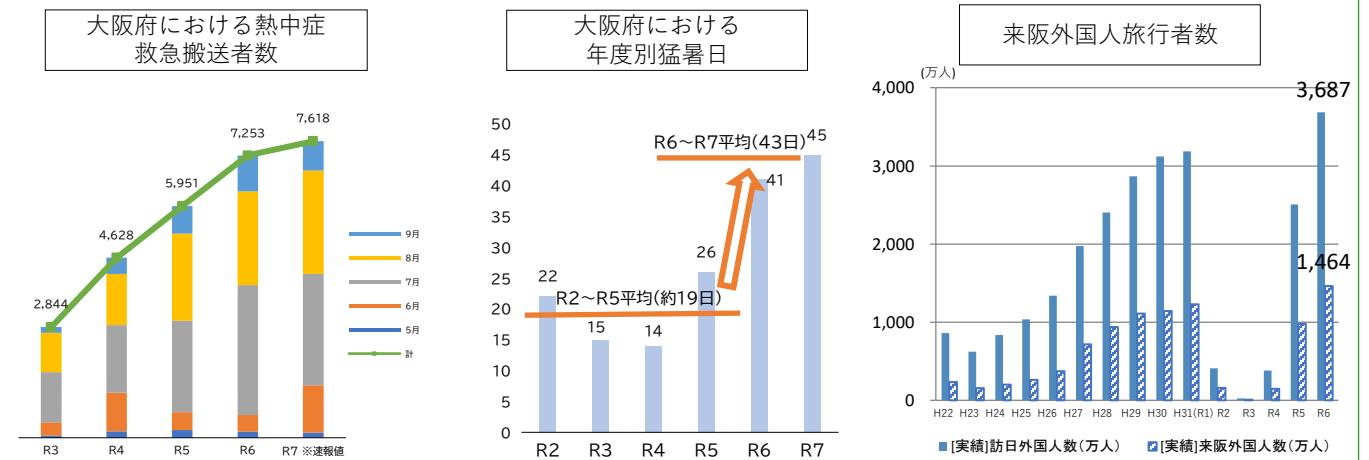
大阪国際空港



ららぽーと和泉イメージパス

猛暑の状況

- R7の夏の暑さは、これまでも増して尋常ではなく、府内の猛暑日が観測史上最多だった昨年の41日を超え、45日にも及ぶ記録的な猛暑となっている。
- また、府内の熱中症による救急搬送も昨年の7,253人を抜いて7,618人となっており、毎年増加の一途をたどっている。
- このように、猛暑による府民の健康被害リスクはまだまだ増加しており、そのリスクを軽減していくための対策は未だ急務であり、大変重要である。
- また更に、万博を機に大阪を訪れるインバウンドは、今後も増加していくと考えられ、多くの人が集まる場所での熱中症対策の重要性は増すばかりである。



令和7年9月議会一般質問や、令和7年11月議会一般質問において、「来阪者が多く集まる場所などで熱中症リスクが高まること懸念されるとともに、府民からも猛暑対策を望む声を沢山聞いている。事業の継続を前向きに検討してほしい」であるとか、「事業を継続すべきだ。前向きに検討してほしい」といった要望を受けている。